

江戸かわら版

教育のつどい2009速報 no.15

★みなさんの声をお寄せください★

【発行】「みんなで21世紀の未来をひらく

教育のつどい2009」速報係

【連絡先】電話03(3230)3891

Fax03(3262)9705

E-mail: tokyoso@zenkyo.org



フォーラム、分科会の報告は、速報特派員が会場の写真と学習の記事、参加者の感想などを携帯メールで都教組本部に送ってもらっています。全部載せたいと思いつつ、分科会特集はこの号までとなってしまいました。特派員のみなさん、お疲れさまでした。



障害児教育の分科会は300人の参加、6つの分散会に分かれての学習でした。

第14分科会「障害児教育」発

分散会報告

参加者の感想

中央に陶芸班のすばらしい製品が並び、報告と活発な討論が行われました。青年期の心の揺れは大きく親も子も必死です。そうした中で本人の思いをしっかりと受け止め、理解し、信頼関係を築き上げていく実践は…。ずっしりとひびきながらも光を見いだせるものでした。全教員が立ち上がり、本人・周囲・大切な友達…人と人の心がつながり、築き上げられる人間関係に感動！です。



兵庫県の定時制高校と北海道の高等養護学校、2つの報告を通して青年期をどう生きるのか？どんな力をつけたいのか？集団でつける力、地域との信頼や地域作り、就学期間の課題などアツイ議論が行われました。

群馬、寄宿舍での生活を通して信頼関係を築くことで不安を取り除き、ズボンをおろさないでおしっこをするようになった報告が、東京からはいつもイライラしている子に笑顔が出るようになった報告がありました。どちらの先生も子どもの願いを読み取ろうと子どもに寄り添うことで子どもが安心して行動が変化したというすてきな報告でした。

訪問教育はハードな課題から、教育内容を考え、実践し、見直し、また作りかえることをほとんど一人でやる大変さ…などなど、同じ訪問担当として、身につまされました。でも、子どもの発信を発見したときの充実感にはかけがえがないものです。

「思春期の教育」分科会は、「悩み多き思春期の子どもたち」の指導について会場一杯の参加者が活発な討論を繰り広げました。共同研究者の竹澤先生、木全先生のお話も「なるほど、そうか！」と興味深く「思春期の子どもたちってだからおもしろい！」という声も。

▲▼▲ 特派員報告今日も届く ▲▼▲

参加者の感想

第23分科会「文化創造と教育」発

参加者の感想3人にインタビューしました。「先生方の現場は、今とても大変だと聞いています。でも、今日は熱心な先生の実践を聞くことができ安心しました。」「高校の実践や博物館の取り組みなど、いろいろなことを聞くことができ、とても考えさせられました。」「最近では学校の文化活動についてのレポートが少なくなりました。これも、学校現場のゆとりのなさの反映かな・・・」

第19分科会「平和と国際連帯」発

初めてのレポート参加です。平和をテーマにした授業だから平和のことを考えるのではなく、学校で過ごすどんな時間であっても、どこかで平和につながっていくような空気が感じられる学校でありたいと願います。子どもたち一人ひとりを大事にされていることが土台にあってこそ平和教育が成り立つのだというお話も聞いてほんとうにそうだなあと、同じ思いで子どもたちに接しておられる全国のたくさんの先生方に出会えてうれしかったです。

平和という状態も感覚も自分と他者との関係の中になんか感じられたり生まれたりはないので、学校という場の中で、人間関係をゆたかに築いていくことを土台として、そのことを大事にしながら平和教育に取り組まれているレポートにたくさん出会えてうれしかったです。東京の糀谷先生のレポートにも、滋賀の斉藤先生のレポートにも「人との出会い」の大切さがつづられており、教育と平和とどの人もがゆたかに生きていくということについてあらためて考えたいくなりました。

第13分科会「発達・評価・学力」発

参加者の感想

子どもの学力を高めるための様々な取り組みが報告されました。子どもたちを取り巻く環境が悪化している中、保護者と子どもと教職員が「学力づくり」を通してつながるようになった実践や、理科や算数で基礎学力を鍛えることで子どもの学習意欲を高めた実践は、今後の参考にまりました。

全国の先生方のすばらしい実践を知り、大いに刺激を受けました。

第20分科会「子ども参加、父母・教師」発

1947教育基本法が改悪され、学校現場ではどのような問題が生じているのでしょうか。

東京での「主任教諭」制度の導入をはじめ、「人事考課制度」などで国や財界の意向を上意下達で強行していくシステムがすすめられています。地方では、学校の統廃合・再編成、地域破壊攻撃のなかで、地元の学校が次々と消されています。

「子どもの貧困」が大きな問題となるなか、これまでと違った“荒れ”を示す子どもたち。学校の中だけでは解決しない困難な問題をかかえながら、子どもを主人公にした実践、父母・地域のネットワークをつくった実践、人事評価をテコとした管理強化と「多忙化」攻撃のなかで学校づくりをすすめた実践、と多くのレポートが発表されています。

第4分科会「数学教育」発

ゲームをしているそうです。楽しそう！



第1分科会「国語教育」発

小学校分科会は50人弱、中高分科会は30人弱、資料が足りなくなるくらい参加です。

小学校分科会では、前半「モチモチの木」の実践レポート二本が出されました。文学の授業で大事にしたいことは何か、様々な感情体験をしていく上でその意味づけをすることを、方法は異なっても変わらないのではないかなど話し合い確認しました。

中高分科会では、後半「なめとこ山の熊」の実践レポートでした。主体的に文学作品を読むということ、生徒にとって生き生きとしたものになっているのは何故かという点を議論しました。

それぞれのレポートに力があって、想いもたくさん込められていて聞き足りない、時間が足りないという感じでした。教材研究を徹底してすごいなと思いました。

第8分科会「書写・書教育」発



ボケてると返信をしたら、「これでどうだ」と送られてきました。

まだまだ送られてきているメールにお答えできず、すいません。打ち止めです。11:34

第5分科会「理科教育」発

今日は、「物理化学」「生物地学」の2つの小分科会に分かれて実践報告です。かたや、斜面上の物体にどんな力が働き、どう教えればよいのかで、激論が交わされました。力は古今東西、昔からどこにでもあるのに、教えるのは今でも大変なんですね。ニュートンおじさんもあの世で苦笑い!!?(笑)

こなた、シロアリがフェロモンの働きで、ペンでかいた円周上をグルグル歩き回るのにびっくり。まるでプラレールようです。やっぱり科学はおもしろい。

第24分科会「教育課程・教科書」発

午前は、小学校と中学校から2本のレポートで学びました。キーワードは子どもの表現。表現力を高めていく校内研究を模索してきた10年間に、表現力は子どもの認識の裏返しとの視点に気付き、教員同士の模擬授業で授業方法を共有した実践が報告されました。